

# 安倍氏台頭と「宝の山」

関東以西では、個人人身支配から土地支配へと、律令制的な支配方式からだんだんと転換していた。それに對して、新しくフロンティアに組み入れられた地域では、律令制をその通りに実行しようという試みが、しばしば行われ続けたようである。

それはどうしてだったのか。そこで考えられるのは、エミシの世界がどういう世界だったのかということである。

エミシはグループごとに暮らしており、それぞれリーダーがいた。そのリーダー同士が横の連携を取って、一致団結する態勢をつくったかどうと、そうではなかったか。

それぞれのリーダーによる自立性が強く、なかなか横の連携ができなかった。政府はそこにつ

け込んだ。

つまり、自分たちの言うことをよくきくリーダーを仲間引き込んで、権限を持たせて支配を進めていった。いわば首長、リーダーの一本釣り作戦である。

そして、エミシ同士の対立をうまく利用しながら、手なすけたリーダーたちに地域を治めさせた。

つまり、受領と在庁官人の主従関係を、今度はエミシのリーダーとの間で結んでいく。そういう応用がやりやすかったのではないだろうか。

言うことを聞くエミシの首長を個別に集めて、主従関係をつくり、それなりの権限を与えた。そ

うして、順応性の高いエミシ首長層の、個人人身支配的な主従関係が築かれていった。その中で台頭していったのが、安倍氏だったのではないか。

では、なぜ安倍氏が奥六郡まで勢力を広げるエキスパートになれたのか。全国的にみても、これほど広い領域を治めることに成功した

在庁官人一族はないと思う。この陸奥の地域、一般的にエミシの地域というのは、都からさげすまれていたのだと思う。しかし、都人にとって陸奥は憧れの地だった。

塩釜市にあった陸奥國の国府津が都に宝を送り出す港であり、都人に

とって陸奥というのは、珍奇な財宝を生み出す地だった。

毛皮は馬のくまに使

馬は最高のプレゼントだった。金は、財宝の象

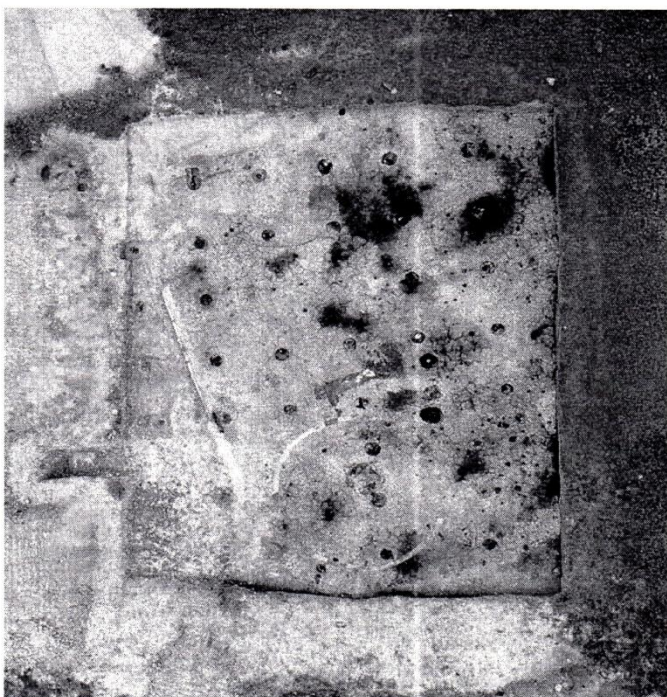
徴。こういうものを送り出すのが陸奥だった。陸奥國は宝の山であり、ここからいかに多くの財宝が都にもたらされるかということが、都人たちの大きな関心事と

なった。そこに、陸奥國の在庁官人の独自の領域が生まれた。在庁官人はまさに、宝を都に送り出す重要なポンプになった。吸い上げ、送り出すポンプの役割を果たすこ

この陸奥に何とかつながりを持ちたいと思っただ、摂関家を中心とした貴族たちは、つなぎを作るために荘園を求めた。摂関家領が陸奥國に多いということ、既に中世史研究の中で指摘されている。貴族たちは独自に富を得るルートを求め、安倍氏は在庁官人としてその根っこをつかむことができた。



縦街道南区域から検出された、大型の四面廂建物跡(11世紀前半)。町教委が鳥海柵として断定に至った建物跡でもあり、高級官人が身に着ける紋具(革製のベルトに装着したバックル)や水晶玉などが出土している



ただ奥六郡だけでなく、その北に広がる北奥の地、さらにはその北に広がる北海道。あるいは海を越えて沿海州という、非常に広い面積の北方地域から財宝を集め、都に送るポンプとなったのが安倍氏で、その基礎を築いたと考えている。そうすると、安倍氏がエミシの出自であるかどうかという問題は、あまり重要な問題ではなくなってくる。重要ではないというのは、前九年合戦の原因を考える上で、エミシの出自であったことが決定的な理由にはなっていないのではないかと考えている。

## 鳥海柵を知る

### 金ヶ崎の国指定史跡

6

— 2014 シンポジウムより —

大平 聡氏 (宮城学院女子大教授) 基調講演  
 「鎮守府胆沢城から鳥海柵へ」 VI